

私は県内の高校に通う普通の学生でした。毎日授業を受けて友達と遊んで、たまに勉強したりする……そんな平穏な生活だったんです。

あの日までは……。

「嘘でしょ……！？　なんで」

五月の暑い陽気の日。これから体育の授業が始まるという時、私は更衣室で目の前の光景を疑った。ロッカーから取り出した体操着が明らかに小さいのだ。

私は普段はMサイズなのに、これはSサイズ。名前を確認するけど、タグの裏には何も書いてない。

「ちょっと待って。私のはどこ？」

自分のロッカーを隅から隅まで見たけど、いつも着ているやつが予備も含めてなかった。部活の朝練の後に誰かが入れ替えた？

それとも私が間違えて、他人のを入れちゃった？

「さえ、何やってんの？　授業遅れるよ」

「いや、私の体操着がないの」

声をかけてきた友達に事情を説明する。彼女もロッカーや周囲を見るけど、それらしい物はどこにもなかった。

「ねえ、Mサイズの服持っていない？」

「持っていないよ。もうSサイズ着るしかないんじゃない？」

「ええ……」

確かに時間が押している今、そんな理由で遅刻するのは嫌だ。大体、私は制服は脱ぎ終わって下着姿。こんな格好でうろうろしているわけにもいかない。

ただ、問題が一つ。

「胸が……」

自慢じゃないが、私の胸はEカップある。クラスの中でもスタイルがいい方だ。Mサイズですら目立っているのに、Sサイズを着てしまったら服がパツパツで余計強調される。

「いや、でも今回だけだし。もう仕方ないか！」

この体操着も後から元の持ち主を見つけて、洗って返せばいいだけだ。そう割り切ると、私はすぐにそれを着て体育館へと走った。

胸が苦しい上にお尻も狭いなと感じながら。

けれど、一回だけと思ったそれは数日後も続いた。

「絶対、誰かが私のを着てる」

Sサイズの服で体育を受けるのも三回目。同じ学年が使う更衣室なんだから、なくなったら元の持ち主が気付くはずなのに誰も名乗り出てこない。誰かにパクられたと気付くのにそう時間はかからなかった。

「早く見つけるか、誰かから借りるかしないと……」

体が苦しいってのもあるけど、クラスメイトの目がとにかく気になる。それに授業が少しでも長引くと教室へ戻るまでに着替える時間がなくなってしまう。

そうすると、パツパツの体操着のまま教室で次の授業を聞くはめになるのだ。

「さえ、次のページ読んでみろ」

「はい……」

立ち上がって国語の教科書を読む。

すると、ふと視線を感じて見れば男子が私から視線をさっとそらした。それで、まさかと視線を泳がせてみれば他にも私を見ている男子達がいる。

（やめてよ……見ないで）

教科書を持つ手が震える。視線の下は強調された私の大きな胸だ。この服だから、お尻も強調されて割れ目に食い込んでいるはず。それを後ろから見られると思うだけで恥ずかしくなる。

「おっばい……」

「っ」

そんな呟きが聞こえてきて、私は読む言葉が止まりそうになった。

「どうした？ 続きから読んでみろ」